

加古修一さんを偲んで

アルベケル アンドラシ シグモンド
有邊歸留・本桃來春・軸文徳TOBUCCO専門学校・
東海学院大学非常勤講師

今年度の速記科学研究会を楽しみにしながら発表の準備を進めていたところ、突然加古修一さんの訃報が届いて大変なショックを受けました。

私が速記科学研究会に関わって、加古さんと知り合ったのは、二〇一四年八月に京都大学で開かれた「中根式速記発表百周年」の研究会でした。(因みに私が参加することになったのは京都大学の大槻信先生、故下谷政弘先生と兼子次生さんのお

陰です。)しかし、速記者や速記研究者が大勢参加する会ということで、とても緊張していて、誰とどんな話をしたか、全く憶えておりません。

以降、速記科学研究会で加古さんにお会いして、大変お世話になりました。また、加古さんも同じ愛知県在住だと知り一層親近感が湧いておりました。いつか愛知県の何処かであって速記について色々なお話が聞けたらいいなあと思っておりましたが、仕事で忙しくて結局お会いする機会を得ることが出来なくなり残念でなりません。

研究会で拝聴した加古さんの発表・資料紹介に「似たものどうし」、武部良明の論文「類音類義語について」の紹介、早稲田式速記字典、早稲田速記の通信教育の話などがあります。私の研究テーマは明治期の速

記資料の成立問題や速記符号の性格ですから個人的に「似たものどうし」の発表が一番参考になったと思います。今後、彼の「似たものどうし」の研究がどなたかに引き継がれることを冀っております。

また、私自身の発表に対してもヒントに富んだコメントをくださったことも感謝しております。なお、武田千代三郎著の『武田式速記入門』と『武田式全書體速記法』の貴重な復刻版も加古さんのお陰で入手することが出来、研究に役立てさせていただきます。ただいています。

このたび、加古修一さんの訃報に接し、昨年の研究会でのお元氣な姿を拝見している私としては本當に突然のことで、驚きと悲しみを覚えております。感謝と共に加古さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。